

18)

日常生活の中に素晴らしい宝



地域資源の活用について話し合う3人（左から河野さん、武山さん、小野寺さん）

河野 楽しさを常に発信 武山氏

自然体でやりたい 河野氏

行政主導ではだめ 小野寺氏

武山さんもHPで 河野 楽しいと思つた仕事はうまい。やはり遊び心もないと。行政が芽生えたのだ。

武山 楽しからや うようでは本物ではない。それが自然体でやる。でもためらへず地盤資源をまないじだ。役員の仕事はうまいのだ。

小野寺 療養感覚で 支援する側に立るべき 何かを持つていい行政だ。やりました。行政は根っこから行政マネがなく、うなづいていた。行政マネがなく、うなづいていた。

河野 楽しい事が事。ただ、それがどうでもいい。結局はそれらの時だけだ。

武山 楽しいからや ういふと、それが自然体でやることを伝えたいたと思う。これが本物になると本物にならなくなる。そこを防ぐために、行政は根っこから行政マネがなく、うなづいていた。

小野寺 療養感覚で 支援する側に立るべき 何かを持つていい行政だ。やりました。行政は根っこから行政マネがなく、うなづいていた。

A black and white portrait photograph of a middle-aged man with short, light-colored hair. He is wearing a dark suit jacket over a white shirt and a dark tie. The background is slightly blurred, showing what appears to be an interior room with a door.

おのでら・ぎょういち 1942年2月、気仙沼市生まれ。気仙沼高卒。65年気仙沼市役所入り。産業部長、企画部長、総務部長を務め、2002年3月に退職。同年9月から現職。

楽しさを常に発信 武山氏
行政主導ではだめ 小野寺氏

樂しさを常に發信 武山氏

.....

第三輯

リピーター確保を 小野寺氏
一番大切なのは人 武山氏
豊かさを見直そう 河野氏

『本物の味、追求』 河野氏
目黒のサンマ好評 武山氏
魅力訴え人を誘致 小野寺氏



こうの・かずよし 1944年9月、
陸前高田市生まれ。立教大学卒業後、
家業のみを、しようと醸造業に従事。
89年から全国大蔵フェスティ
バル実行委員会会長、現在は同委
員会顧問。気仙町けんか七夕保存
会会長、陸前高田ふるさとの味会
会会長、陸前高田ゆかた祭り主
席監修官。

氣仙沼・本吉地方をはじめとする南三陸地方には自然、食料、観光、名所などを数多くの地域資源がある。そこに住む人々をそれをどう活用し、これからどう生きかそうとしているのか。地域の宝を活用しようの活動に取り組んでいる隣町高田市の野野和義氏（八木商店代表取締役）、氣仙沼市の小野寺暁氏（氣仙沼コープシンボリュード一協議会常務理事）と武山せい子氏（吉黒のさんま祭氣仙沼実行委員会副委員長）の三人に語ってもらった。

地域資源の活用 座談会